

トマス・シデナム(1624–1689)の 『処方集約 Processus integri』

坂井 建雄

順天堂大学大学院医学研究科

17世紀イギリスの医師トマス・シデナムは、医学の歴史の成書には必ずといっていいほど登場する著名な人物である。古代ギリシャのヒポクラテスに倣って、患者を注意深く観察して正確な記録を残すこと、自然治癒力を信頼した治療法を推奨したことから、「イギリスのヒポクラテス」との呼び名がある。シデナムは、医学史に登場する他の医師たちと違って、大学で教育に当たることも医学の学協会の役職にも就くこともなく、終生にわたって市井の開業医であった。シデナムは疾患についての自らの体験を元に個別の疾患を扱った著作を著した。『熱病の治療方法』(1666)とそれを発展させた『急性病の病誌と治療についての医学的観察』(1676)、『二つの回答書簡』(1680)、『書簡論文』(1682)、『痛風と水腫についての論文』(1683)、『警告のための紙片』(1686)の6編である。没後には『処方集約』という多数の疾患を列挙してその治療法を記したマニュアル本が出版された。これらの著作およびロバート・ボイルやジョン・ロックらとの交友を通して、市井の開業医でありながらシデナムは一定の評価を得ていたが、ライデン大学のブルハーフェが臨床での観察を重視するシデナムを称賛したために、18世紀に入ってシデナムの名声は大いに高まった。シデナムの著作集はイギリスおよびヨーロッパ各国で数多く出版され版を重ねた。

『処方集約』はシデナムの著作の中で最もよく読まれたものであるが、没後に出版されており、出版までの経緯も不明な点が多い。ロンドンの初版(1693)では57の疾患項目が扱われるのみだが、第2版(1695)では4つ増えて61の疾患項目が扱われており、より完全な版とみなされる。内容は、実地によく用いられる薬剤の処方が14種類掲げられ、それに続いて61の疾患項目があり、シデナムの他の著作で取り上げた疾患の処置について記している。無許可開業医のモンフォートと推定される「S.M.」による序文がロンドン初版にあり、これが出版経緯についての唯一の手がかりである。

シデナムの『処方集約』は、1693年にラテン語版がロンドンで出されると、3年以内にアムステルダムとジュネーブでも出版され、また英語訳の二つの版(『完全方法』、『シデナム医療実地』)がロンドンで出版された。『処方集約』は、1750年までにラテン語で16版が出版され、英語訳は2種類で10版、オランダ語訳が1種類5版、ドイツ語訳が1種類2版出版されている。シデナムの著作の中で最もよく読まれた本であり、18世紀を通じてイギリスの医師の必携本として愛用された。

シデナムは疾患を植物のように個別の種として扱う着想をもち、その考え方は18世紀後半のソヴァージュが提唱した疾病分類学の基礎となったといわれる。疾病分類学は19世紀初頭における臨床医学の大変革の出発点となったと考えられる。シデナムの『処方集約』は簡便な実用書であり、疾患の種という着想を具体化して、個々の疾患を列挙した著作である。ブルハーフェの『箴言』(1709)は大学の医学実地の教科書として個々の疾患を列挙するという方式を初めて実現したものである。そして疾病分類学の嚆矢とされるソヴァージュの『方式的疾病分類学』(1763)はその方式を極限まで推し進めた医学教科書である。疾患の種という着想は、単なるコンセプトとしてではなく具体的な著作の形として、シデナムの『処方集約』からブルハーフェの『箴言』へ、さらにソヴァージュの『方式的疾病分類学』へと継承され発展し、その後の医学の変革につながったのではないだろうか。